

文教ボランティアズ、コソボ大統領と会見（8月26日）

国際学部で国際協力活動を実践している文教ボランティアズの学生が8月26日、コソボの首都プリステイナで、ファティミール・セイデュー大統領と会見した（写真）。同席したのは、3年生4人（樋惇紀、石川結麻、犬飼香奈、内田萌奈美）、2年生2人（佐藤夕夏、蟻坂舞）の計6人と指導に当たっている同学部国際ボランティア委員会の中村恭一、生田祐子の両教授。



会見日のちょうど1カ月前、雅子皇太子妃の父である小和田恒氏が所長を務める国際司法裁判所（総会、安保理等と並ぶ国連6大主要機関の一つ）が「コソボの独立宣言は国際法並びに関連の国連決議に反するものではない」との判断を下したばかり。近づく国連総会でもセルビアの提起により、コソボ独立問題が論議される見通しの中、コソボには連日EU(欧州連合)や関係諸国の外交幹部が訪れて、大統領も職務に忙殺されている最中での会見となった。

表敬訪問が可能かどうか日本出発時には不明だった。ところがコソボ到着の翌8月23日、在東京コソボ大使館のサミ・ウケリ大使から中村教授に「26日午前10時に大統領が官邸でお会いする」との電話が入った。

会見では大統領から、コソボ紛争後の日本の様々な復興協力やコソボ独立宣言直後の日本の承認（2008年3月）への感謝をはじめ、今年春アジアでは唯一の大使館を日本に開設したことに触れて、コソボにとって日本がいかに重要な友好国であるかを熱心に語られた。中村教授からは、日本もサンフランシスコ講和条約後国連加盟までには数年かかったこと、文教大学のコソボ復興協力活動が今年で10年目を迎えたこと、さらに今回はコソボの学生たちとの平和セミナーなどでの交流や小学校、紛争被災者家族への支援などのために訪問している事情が説明された。大統領はボランティア活動にも感謝と敬意を表明した後、「訪日の機会にはぜひ文教大学で学生たちと懇談したい」との希望を述べられた。

当初10分程度の表敬と見られていたが、会見は30分に及んだ。会見が行われた執務室横の控え室では、次の訪問団数人が待機していた。クラブ・セイデュー法律顧問（大統領と同姓は偶然）からは9月15日、「日本からの大事な訪問客への時間は最優先で調整する」とのメッセージと共に、上掲の写真（官邸公式カメラマン撮影）が送られてきた。

紛争終了後11年、独立宣言後2年のコソボは承認国が69カ国となり、今後承認国の増加と共に、国連加盟、EU加盟などが重要課題。世界銀行や国際通貨基金（IMF）には既に加盟しており、日本政府はコソボ政府内に開発アドバイザーとしてJICA 専門家を送り込むなど、協力活動を推進している。